

## 母なる自然の叫び 和歌山の役割

ラホイラホイ レイナルド スガノブ  
(フィリピン・教員研修留学生)

世界は変化し、それはとても速く変化している。私達は以前、遠くから鮮やかに見ることの出来る緑の森の雄大さや、分厚く白い冰山や氷冠、そして青い川と海に魅了されていた。鳥や動物達は素晴らしい自然を作りながら独自の楽しい音楽を奏でていたので、彼らの鳴き声はどこからでも同じように聞こえてきた。当時の人々は、豊かな母なる自然の御陰で恩恵を受けていた。

現在このシナリオは反対に回っている。素晴らしい自然は、利己的で冷酷な人間によって破壊されている。その結果世界は、今まで誰も想像したことのない気候変動に苦しんでいる。ニュージーランドと日本、そして残りの世界を襲った大地震は、何千人もの人々の命を奪った。又たったの数分で全てを呑み込み、インドネシアやインド、タイや日本を襲った津波は、建物や土地を破壊し、何千もの人々の命を奪った。

母なる自然を破壊するもう一つの恐ろしい影響は、地球の温暖化である。ウィキペディアは地球温暖化を、“森林伐採や化石燃料の燃焼といった人間の営みを原因とするものが、二酸化炭素などの増加した大気中の温室効果ガスのかたまりが、大気と海洋の平均気温を上昇させ続けること”と定義している。絶え間なく暖かくなり続けている地球が、海面上昇や降水量の増加を引き起こすことになるのだろう。そして地球温暖化の最悪のシナリオは、洪水や熱波、干魃、そして絶滅の危機に瀕する生物達の消滅だろう。現在その影響は、地球上のあらゆるところであらゆる人々が経験している。

私達は盲目なのか、それとも何も聞こうとしないだけなのか？ 私達は、また新たな壊滅的被害が起こるのを待たなければならないのか？

### 和歌山の役割

和歌山は素晴らしい自然に恵まれており、豊かな文化があり、そして親切な人々がいる。今日、和歌山は地元の人々だけでなく、そこに住む外国人にとっても故郷となっている。私は和歌山を私の第二の故郷と考えており、私はここで人々の寛大さやもてなしの心を感じている。私は又地元の人々や外国人の為に活動している沢山の団体を見ている。その中の一つが、中谷先生のリーダーシップの下運営されている WINCONCORD である。この団体は、和歌山の国際交流会館に住む留学生を支援し続けている。

しかしながら、未来の世代の為にこの素晴らしい場所を守っていくには、母なる自然を保護し、育てていくことが必要であり、又それは私達が私達自身を大切にすることと同じぐら

い重要なことである。私達が生きていく場所はシンプルであるべきと同時に、気候変動に対して対応できるよう効果的であるべきだと考える。

化学の教師、そして和歌山の在留外国人としての私の役割は、気候変動に対してどのように戦っていくかを人々に知らせることである。私はこの問題に対し2つの方法を提言する。一つ目は、the “Go Green Wakayama” : 和歌山にいる地元の人々と外国人が、さまざまな政府機関や非政府組織の管理と支援の下、一日を通しての植樹活動に参加すること。二つ目は、“Bicycle for a Cause” の実施。一般的に日本、特に和歌山では、自転車が一般市民にとって最も人気のある交通手段の一つである。“Bicycle for a Cause” において、地域住民が自転車に乗ることを奨励する為に、街中で開催される自転車パレードに参加すること。これは良い運動にもなり、又地球温暖化の原因となる二酸化炭素のような空気中の汚染物質を最小限に減らしながら、気候変動と戦う手段の一つにもなる。

これらの方法は簡単だが、母なる自然が以前からもっていた美しさを取り戻す為には効果的であると私は信じている。団結、協力、そして母なる自然を大切にする心は、地球温暖化を抑制する為の大きな手立てとなる。和歌山の人々はこれら全ての価値観を持っている。これらは又和歌山が真に誇りとすべきことであり、世界に誇るべき遺産でもある。

